

鶴見半島及び大島地域の自然林



鶴見半島の自然林



タブノキ群落

かつて半島斜面は薪炭材^{しんたんざい}を供給する林として伐採が繰り返され、再生力の強いタブノキが丘陵斜面にヤブニッケイやシロダモ、イヌビワなどと群落をつくっています。



アコウ・タブノキ群落

大島の加茂神社にはアコウの巨木が生育する森があり、林内にはモクタチバナ、ヤブニッケイ、フウトウカズラなどが生育しています。アコウは亜熱帯性の植物で、ここではタブノキ群落との共通性が高いようです。

豊後水道に面した九州東岸はリアス式海岸となっていて、鶴見半島は九州本土から約10km東へ突き出た半島です。稜線から急峻な斜面が海へ迫り、南側は米水津湾、北側は佐伯湾となっています。大島は半島東端の佐伯湾側に位置しています。気候は、豊後水道を北

上する黒潮が半島近くを流れていて温暖な気候です。かつては薪炭材^{しんたん}を供給した常緑広葉樹が広く分布し、海岸近くはウバメガシ林、ハマビワ林、山腹にはスダジイ、タブノキ、ヤブツバキなどが生育する自然林が見られます。



スダジイ群落

神社の境内や山腹斜面では遷移^{せんい}の最も進んだスダジイの群落が見られます。林内にはヤブツバキ、タイミンタチバナ、アラカシ、イズセンリョウ、ノシランなどこの地域の自然に馴染んだ植物が生育しています。



急斜面の崩壊を防ぐ自然林

鶴見半島一帯は急傾斜地が多く、雨量が集中すると、土石流が発生しやすくなります。斜面の自然林は表土の流出を防ぎ崩壊防止の役目を果たしています。



ウバメガシ群落

海岸の急斜面には潮風や乾燥に比較的強いウバメガシが群落をつくっています。林内にはトベラ、ツワブキなどが生育しています。がけの崩壊防止の役目を果たしています。



ハマビワ群落

海岸近くの斜面にはハマビワの群生する低木林がみられます。ハマビワは葉を密生するので林内は暗く生育する植物は少なくなっています。ウバメガシ群落とともに海岸地域を代表する群落です。